

Harvard Graded Direct Method Teachers' Group

News Bulletin

第 1 号 英語教授法通信

1957年10月1日

THE ECLECTIC METHOD

アメリカ国務省では、外国において英語を教えるアメリカ人教師のために次のような方法をすすめています。われわれ日本人教師にも参考になることが多いと思われるので次に御紹介します。

1. *The English language should be used as much as possible in the English classroom.*
2. *The teacher should speak English slowly and simply, so as to be within the comprehension of the student.*
3. *Translation is a specialized skill. It may be used judiciously at any level of instruction, but should never be allowed to become a crutch without which the student cannot move in the English language.*
4. *More attention should be given to the teaching of the "manipulating words" of English than to the "content vocabulary".* Nouns, verbs, adjectives, and the like are easily taught, while teachers tend to pass over the more difficult vocabulary items of English, such as prepositions and auxiliaries. These latter, however, deserve the greater proportion of emphasis, particularly in the initial years of instruction, since they are the essential manipulators of the language.
5. *Only a few new words, and only one new word order pattern should be taught for mastery during one class period; and they should be given planned review.*
6. *Teaching of vocabulary should be made as meaningful as possible through visual aids and connection with the experience of the student.*
7. *Much attention should be given to the teaching of word order, which is now recognized as a vital meaning factor of English.* Dr. Fries of Michigan and Dr. Kichin of Teachers College, Columbia, recommend that foreign students be restricted in their production to those standard word order patterns which carry the fewest special emotional connotations.
8. *Reading materials should be suited to the level of the student.* The American or British classics are in most cases unsuitable for use in beginning or intermediate classes. Until the student has mastered English, he will only suffer from an exposure to the language in its highest form. This

point deserves particular emphasis in the countries of the Far East, where the classics are over-used, in a continuing process of painful translation.

9. *Reading aloud should be used only with great care as a device to test or drill on pronunciation and intonation.*

This device is over-practised in many areas, to such an extent that students develop a highly artificial form of speech—and at the same time lose many valuable class hours. (The popularity of reading aloud is probably caused by the fact that it requires no advance preparation by the teacher.)

10. *The language lesson should have a large proportion of student participation.*

11. *Oral drill is essential for true mastery.* Rapid-fire drills periods should form part of most class hours, in order that the student may learn to produce English without conscious thought. Drill is important for pronunciation, intonation, vocabulary and word order training. Students may be drilled individually, by groups and by entire class; to be most effective the procedure should be constantly varied. Drill is as useful in large classes as in small. Care should be taken to see that the drills do not become mere memorization. Excellent drill procedures have been worked out by Fries and Kichin, following some of the substitution table techniques developed by Dr. Harold Palmer.

12. *Formal grammatical terms should be avoided.* Agreement is not yet complete

among the experts as to what constitutes the true grammar of the English language. However, it is consistently agreed that difficult grammatical terminology and analysis should be avoided, and that the presentation of rules or grammar should be handled with care, as they are in many cases misleading and inaccurate.

13. *The sound system of English language can most effectively be introduced through some symbolic representation.* It is generally agreed that the International Phonetic Alphabet symbols are most efficient and that phonemic, rather than phonetic transcription should be employed.

14. *Progress through a text should usually be slow and thorough, rather than rapid and cursory.* This is an essential point in the first years of instruction if competence in speaking and understanding the language is the objective.

15. *The teacher should feel free to vary the text to meet the needs, interests and learning pace of the students.* In areas in which the textbooks are inadequate, the teacher should be urged to make changes and deletions as the situation requires.

16. *The teacher should at all times remember that English is a living language.* This statement involves two important points: (a) the English class should be lively and interesting, and (b) English can most logically be taught as a reflection of the culture in which it is spoken.

夏休みを利用して、Graded Direct Method による5日間の集中講習会が神戸で開かれました。ここに、この会を思いつき、すぐさま実行に移し、成功させるために無くてはならなかった推進力、神戸麻取中学の金田正也さんからの報告をのせます。

「入門期の英語指導（特に一年生）に極めて有効な技術——先生はあまりしゃべらずに、次々に生徒に発表させ得る技術、従って指導者は疲れ知らずに而も生徒に高度のThinking in English の習慣をつけ、発表力を養える技術——Graded Direct Method（ハーバード大学）——の正しい方法を研究してみませんか。

それには先ず私たちがその方法で習い、私たち自身の語学力（特にHearing, Speaking）を伸すことです。

この方法の国内最高権威者、吉沢美穂先生の当地御来遊を機会に下記の通り五日間の夏季講習会を開きたいと存じます。至急お申込み下さい。——

このような文書が兵庫県、神戸市各中学校英語研究会長名で傘下校に一斉に流れたのはあと数日で夏休みという暑い日のことでした。外国語教育熱の盛な港市のこととて忽ち申込み殺到、始め「小人数で充実した会」との趣旨で20名の定員とした所を30名迄に最大譲歩を余儀なくされました。

英語教育振興の為には講師料返上、それどころか、フィルム、レコード等一切の教材を無料で東京から持参しようとの吉沢先生の申し出に感激した地元では、アメリカ文化センターが連日会場を提供、日旺月旺の休館日まで特にこのセミナーの為に開放して終日冷房装置を働かせて下さり、神戸市教育研究所、県市教育委員会も全面的に後援、連日担当主事がつめかけて指導助言を頂き、新聞記事もその成果をとりあげる等盛会ぶりは筆紙

に尽せぬ程でした。僅かこれだけの人数の為に用意されたものは器材の面から見ただけでも、録音機5台、映写機2台、レコードプレイヤー3台、発音矯正器4組、幻灯器1台、実験クラス延8ヶ学級2校。如何に充実した会で、如何に参加者に喜ばれたかは、閉会時全員無記名提出のアンケートが100%感謝と感激で埋り、その後も三々五々と礼状のたえないのをみても明らかでありましょう。なかでもとりわけ好評であったのは何といっても吉沢先生の Lesson(demonstrationではなく、参加者自身が生徒となって鍛えられるもの)で、いつもニコニコ元氣一ぱい熱意あふれる先生の御指導ぶりには誰しも心ひかれるのは当然と申せましょう。「教育法の真諦はもはや教授法にあらずして人なり」その人を磨くためにも我々今後共一層手をつないで研究の道にいそしもうではありませんか。参考迄にこのセミナーのスケジュールを抄記します。

8月3日(土) 午前中、神戸市中学校英語研究会例会、次いで午後一時より前講「私の体験」明石付中樋口豊治先生。講演1「Outline of the G.D.M.」吉沢先生。午後3時より English through Pictures による吉沢先生の Lesson 続いて講演2「Basic Englishについて」立教大学中川一郎先生。

8月4日(日) 午前9時より Lesson と教授法講議(吉沢) 正午休憩、以後毎日昼休みに外国映画上映。

午後1時より視聴覚教具利用法(金田)、Lesson(吉沢)次いで3時より明石附中学生徒(この方法で樋口先生より教わって来た)を

対象に吉沢先生のみごとな模範授業 (English through Pictures 使用)。

8月5日(月) 9時 Lesson (吉沢) 10時 神戸中学校普通クラス生徒対象に R. Jack & Betty 使って, G.D.M. の手法を応用した模範授業(樋口先生), 11時討論会。席上, 昨年度神戸市英語教育研究指定校として English through Pictures を使って指導して来た原田中学校の成果の発表等があり極めて参考になりました。午後は外人講師による発音矯正, Free Conversation, 吉沢先生の Lesson 等にもっちりしられ, 翌8月6日(火)は朝から全員神戸中学でG.D.M. の教育実習, 後再び文化センターに移ってその批判会, 次いで外人講師による発音指導と息もつかせぬ猛訓練, 午後は Speech や吉沢先生の Lesson そして3時から特に Tea Party を開いて英語で観談しました。

8月7日(水)も前日とはほぼ同様のスケジュールに終り, 4時前, 多数来賓交々立って絶賛の Comment を頂く中にセミナーの終了式となったのでありました。

神戸の講習会に出席して, この種の講習会が, 教授法についての講義の何倍もの効果があるということがよくわかりました。また, Practice Teaching では, 第一日目と第二日目にやったそれぞれ6人ずつの先生達の実力に甲乙の差がないにもかかわらず, 第二日目のほうがよくできたのは, たった一回の相異でも, 授業をよく見て批評し合うことが, どんなに大切かということがよくわかりました。また, この講習会で, たった5日間でのような成果をあげることができたのを見て, 誰でも努力すれば或る程度この方法で教えるコツをのみとむことが出来ることが実証されたと思いました。—— 吉 沢 ——

春の講習会に出席して

英語の言葉は一体どの位その数があるのかわからないが, 之をマスターする事はまるで賽の河原で小石を積み様にもどかし, 決して彼岸に到達出来ぬものと正直な所今迄考えていた。女学校, 女子大を通して相当の時間を英語に割き, しかも余り不勉強ではなかった筈なのに, さて映画, ラジオで聴く英語と云えば, 耳に快いリズムを感じる丈で殆ど意味は解らず, たまに英米からの珍客が魅力のある講演をする際出掛けて行って, 1~2時間神経を集中しても, やっと何か掴める程度, 路傍で外人に道を尋ねられようものなら忽ち啞になって了う。英語と云うものは全く恥をかく為にある様なものであった。

こんな私が偶然の機会から吉沢先生の今度の講習会に出席して, 語学と云うものは観念的ではなく絵やレコードを通して, 即ち視覚, 聴覚に訴えて理解させるもの, 又, basic な英語を巧な順序で教えること, 日本語の仲介無しに direct method をとる, 等々, 真に合理的で, 長年英語をもて余して苦しんで来た私には, 一つ一つ尤に思われる。何年も錆びついていた機械が, とにかく動き出した感じである。こんぐらかった糸がほぐれて出発点を見出した様に思った。平易な言葉, 平凡な言廻しであっても, 楽な気持で自由に自分を英語で表現出来る様になれば, 今の私にとっては大したものである。私自身この方法でやり直し度いし, 又教えるにしても, 私の様に家庭を持ち昼間しか時間のとれぬお仲間数人でグループを作り, 先輩に指導して頂けたらと切望している。最後にこの春の講習会で, 講義, demonstration, 見学等) 終始熱意を以て啓蒙して下さった吉沢先生に深く深く感謝する。

(井口喜美子)

テレビで Graded Direct Method が取り上げられ大成功をおさめた——ただしアメリカでの話。同じポケットブックで有名な French および Spanish through Pictures にもとずいたテレビを、はじめボストン地区だけで放送したところ大評判だったので、全米の教育テレビ網にのせられ、ここでも最大の人気番組となり一般聴取者と学者教育者の両方から絶賛をうけている。日本での英語教育番組は NHK の毎金曜日午後1時と NTV の毎朝7時半のふたつがある。まだいろいろ改良すべき所も多いので、批評をどしどし局に送り、私達の理想に近づくようにしなければならない。テレビを見て気がついたことがあったら忘れないうちに局宛に建設的な批評を送りましょう。

新しい本2冊 読み方を教えるために、アルファベットの与え方に注意ぶかい grading を行った本 *First Steps in Reading English* by C.M. Gibson and I.A. Richards がポケットブックで出た。これは *Words on Paper* の改訂版でふつうの洋書屋にあり、170円。 *English through Pictures* #2 これは長い間ウサされ完成を待たれていたもので、例の本で約500語をマスターした後、この新しい本では単語を1000語にふやしている。あの本をやった後どうしましょう、と迷っている私たちにうれしい知らせ。秋が深まる頃には手にはいるだろう。

種島県英語夏季大学と国際キリスト教大学のセミナーで、吉沢さんは、Harvard Graded Direct Method のアウトラインについて講演された。

8月31日、東京女子大学のミス・チャペルに研究会の会員が招待されました。この機会に、今後の研究会の運営につき相談し、次のことが決まりました。

(1) 今まではっきりしていなかった会員の範囲をはっきりと登録して、会員については催しものの通知、研究会の日取りの変更等をもれなく通知する。会員は通信費として年額200円を払込む。

(2) 月例研究会は、従来毎月第二月曜だったのを、10月からは、第三月曜4:00—6:00 p.m. とする。会場は特に通知のない限り、千代田区富士見町 1—16、ルーテル英語学校。研究会には会員以外の者でも出席できる。研究会出席者は、一回につき会費従来通り50円。

(3) 会の仕事は当分の間、次の人たちをお願いする。

事務局： 片桐ユズル

会計係： 柴田利子

Program Committee： 伊木 英子
長谷部米子
高木恵美子

この結果、今まで一部の人にかぶさっていた負担が分散し、会の運営もよりスムーズになり、プログラムもマンネリズムから脱却することが期待される。

(4) 会員登録のため、入会希望者は同封のカードに記入のうえ、下記に申込むこと。カードの手許に届かない読者で入会希望のかたも下記に御一報下さい。

杉並区井荻 2—106 片桐ユズル

10月の例会は21日、ルーテルで、教授法について津田のミス・メアリ・チャペルのお話と、新人による trial があります。

編集部から

皆様お元気でいらっしゃいますか。ニューズレターNo.1をおとどけいたします。たいへんおくれましたことお許し下さい。

次号から、次のような企画を加えたいと思います。学校めぐり (Graded Direct Method を使っている学校や、先生を訪問する)、Question Box (皆が共通に持っているような質問を取りあげて、吉沢さんや他の先生に答えて頂く)、Suggestion Box (他の方たちにすすめたいと思っている方法)、

プロフィール (ミス・チャペルとか、吉沢さんとか阿江さんとか、ベテランおよび、新鋭の先生たちを紹介する)、エピソード (クラスで、思いがけなくうまく行った話、とか、珍答などをひろうする)。

いつも気になってるギモン、訪問してほしい学校、この企画の他の記事の希望、No. 1の反響、批評など、ぜひお知らせ下さい。宛先、杉並区井荻2-106 片桐、電話の場合は (39)6530 都立杉並高または (38)7141-3 女子美大。

English through Pictures ¥170

First Workbook of English ¥240

Teacher's Handbook for English

through Pictures by Mioko

Yoshizawa ¥360

Anglophone Records for English
through Pictures, Series I and II ...

... ¥11,400 each. 御注文うけてから、
1~2ヶ月でお手もとに届きます。

東京都中央区日
本橋高島屋5階

チャールズ・E・タトル商会

電話千代田 (27) 9929

10月7日開講 ☆実績ある

リチャーズ式 Graded Direct Method による

独特の組織的初歩英語教授法

☆フリーズ式 Patten Practice 応用

☆外人個人的指導

規則書20円

☆少人数制の理想的会話クラス多数

☆総合科 ☆速記・実務英語科 ☆補習科

午後之部 4:30—6:00 夜間之部 6:00—8:10

ルテル 英語 学校

千代田区富士見町1の16 電 (33) 5266 国電飯田橋駅下車5分